

第8回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和5年10月24日（火）15時00分～16時45分

会場：湖西市役所 市長公室（オンライン併用）

テーマ：水道を取り巻く状況とスマートメータの可能性

発言者	発言内容
井上委員	<ul style="list-style-type: none">・インドネシアに頻繁に行っているが、DXに関して日本は遅れている。・水道業界は狭く、土木分野の一つ。水道協会は市町村が会員になっている組織で年1回の研究発表会に参加し、情報収集を行っている。・上水道事業は通常は市町村が運営している。水の供給について湖西市は県から購入したものと自前で供給するものがある。・老朽化の進行が課題。高度経済成長期に整備されたものが一気に更新時期にきており、現状のペースでは、すべての管路を更新するには130年以上かかる。・管路の耐用年数は40年。計画的に更新するために、各市町で地域水道ビジョンが策定された。湖西市は2012年策定。・更新費用をどのように捻出するか。管路の更新など、本来すべき事業をやらずに黒字化している。小さい事業体ほど給水原価が供給単価を上回っており、赤字のところが多い。全国的な問題のため、自前で費用を捻出するのではなく国の出方を待つ自治体もある。・湖西市も水量は減少する見通しだが、使われなくてもダウンサイジングは簡単にできず、固定費はかかり続ける。水道料金を上げるには、市民の抵抗が大きい。そこで、湖西市では管路更新の平準化による経費や更新計画を検討し、水道が持続できるような水道ビジョンに見直し、持続可能な将来に向けて問題ない方針で実施している。その分今後料金値上げが見込まれる。・全国でこれだけの地域に一気にスマートメータを導入したのは湖西市が初。日々の業務・課題に追われ、新たなチャレンジができない自治体が多い。・湖西市は、検針作業から支払いまでの流れを中部電力のインフラを活用している。自前でやるには費用がかかりすぎる。・湖西市は、2027年度までに市内の全戸に導入する計画。追随する自治体が10年は出てこないくらい画期的なこと。・入出・知波田地区の作業時間だけで140時間かかっていたものが5分になった。作業時間の改善、漏水発見などのメリットに対し、導入費用が見合うかどうかの検証は必要。他の自治体も注視している。

<p>井上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートメータのデータには様々な活用の可能性がある。水道ピーク時間の把握や、漏水の早期発見、管路口径の適正化、残留塩素濃度変化の把握など。また、電気・ガスと合わせて、見守りやフレイル予防にも活用できる。 ・水道の管路については、不具合が起こってから修繕する事後保全と起こる前に修繕する予防保全の考え方がある。当面の維持経費が不要になる事後保全を取り入れる自治体もあるが、トータルで見れば予防保全の方がコストは少なく済む。 ・計画的に管路を変えていけば将来の生活の質を維持できるため、そのあたりは自治体の売りになる。 ・これまで水道は厚生労働省の管轄だったが、下水道と同じく国土交通省に一元化される。水質・衛生については環境省。税金が投入しやすくなると期待されている。
<p>菊地委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業は素人だが、湖西市の水道事業検討会で委員長をしている。 ・昨今いろいろなところで管の破裂が起きており、計画的な更新が求められている。財源としては料金引き上げで住民に負担を求めざるを得ないが、物価高・低賃金の状況で悩みどころである。 ・湖西市は、近隣自治体に比べると水道料金が割高。職住近接・移住定住の観点からするとネガティブな情報。 ・予防保全が大事。事後保全は何か起きた場合に取返しがつかず、将来世代への負担押し付けであり、総額の経費としても高くなる。市民に説明し、納得してもらった上で進めることが大事。未来を見据えて熟慮できる市民をいかに増やすか、市としてそのための情報提供をいかにしていくかも大事。 ・スマートメータ導入や料金の共同収納など、料金値上げ幅を抑えるため創意工夫する姿勢が市民への共感を生み、持続可能な水道事業インフラ整備につながっていくと思われる。
<p>大倉委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に厳しい状況の中、湖西市がチャレンジしている意味が分かった。 ・知波田地区の当事者は、楽しみにしていた。生活の中に新しいものが入ってくるワクワクした未来と水道事業が抱える現実に青ざめるところがあった。 ・スマートメータの可能性がすごい。値上げしなくていいわけではなく、値上げ幅を下げる、未来への投資。 ・高齢者の見守りの話は、若年妊娠のお母さんにも置き換えられる。 ・水や電気などのライフラインはその人の生活そのもの。利用量、利用時間帯データの分析により、目に見えないお困りごとをつかめる可能性があり、未来を感じる。例えば、年代、家族構成ごとの標準的な利用量を一定の仮説とした場合、その数値以下だと困っていない可能性が高いと推測できる等の活用ができるのでは、との印象をもった。一方で、データの活用時には、画一的な運用では利用者の生活実態を指摘することにもなるので注意が必要。 ・DX が良いのは分かるが、一方で使えない世代もいる。新しい制度を導入する場合は、苦手な人が取りこぼされない教育や選択が必要。 ・DX の導入により、人の仕事が本来やるべきことに専念できるようになれば良い。

<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(塩素が少ないと衛生上問題があり、多いとカルキ臭が残る。) ・(全戸導入の計画で厚生労働省からは3分の1補助が出ている。)最初に導入した方が、補助額が大きい場合があるので、1つの策としては良い。 ・検針員の雇用の問題はありますが、市側で効率よくDXを推進できるならどこまでも進めればよい。菊地先生の話は全く同意。DX化、スマートメータ導入による経費削減、予防保全や水道料金への反映など、説明をしっかりとすることが大事。 ・水道は人権。厚生労働省から国土交通省に移管されることに不安がある。その観点は湖西市も忘れないでほしい。 ・DX、効率化はどんどん進めればよい。その浮いた費用や人材についていけない人に向けてほしい。不公平に思う市民には、どんな状態でも守ってくれる市であることを説明して、DXを進めてほしい。 ・スマートメータのデータ活用に関して、見守りなどで便利な反面、デリケートな面もある。配慮した上で使えるデータは市の中で連携して生活支援に活用してほしい。
<p>井上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データは匿名で活用している。カーナビやスマホの位置情報も同様。 ・学生からは、配達業者にデータを提供したら便利というアイデアがあった。 ・見守りサービスは、個人を特定する必要があるので同意を得て行う必要がある。
<p>佐原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(スマートメータは、本体や電池は8年は持つ。定期的な更新が必要。) ・スマートメータ導入による水道料金の時間帯割引に期待している。現在、電力は時間帯を見ながら使用している。現場で目に見える形であると意識できる。 ・湖西市もだんだん過疎化しており、道路や水道などのインフラ整備が課題。 ・DXでは、アップルウォッチの活用で病気の早期発見・予防ができています。安価に済む予防保全を取り入れてもらえると良い。
<p>井上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湖西市は大口需要の割合が少ない。時間帯別料金を導入して、大口需要が増えれば一般家庭の水道料金はそれほど上げなくて済むかもしれない。 ・水道料金は逓増制度を導入しており、使用量が多いほど1m³当たりの水道料金が高くなる仕組みである。大口需要の会社などでは、水道料金が高くなるため、独自に井戸を掘り、地下水を活用するところも多い。